

どんなブナの木からタネを採ればいい？

北海道では、道産ブナ種子からつくった苗木でブナ林再生を進めています。しかし、ブナの種子は毎年採れるわけではなく、最近10年間では3回ほどしか採種されていません。この貴重な機会にブナの種子を効率良く集めるには、どのようなブナの木を選べばよいでしょうか。

日当たりの良い孤立木には、一見多くの種子がなっているように見えますが、中身の充実した健全な種子の割合が少なくなりますし(図-1)、収量も良くありません(図-2)。種子はなるべく、林内のような母樹が多いところから採りましょう。

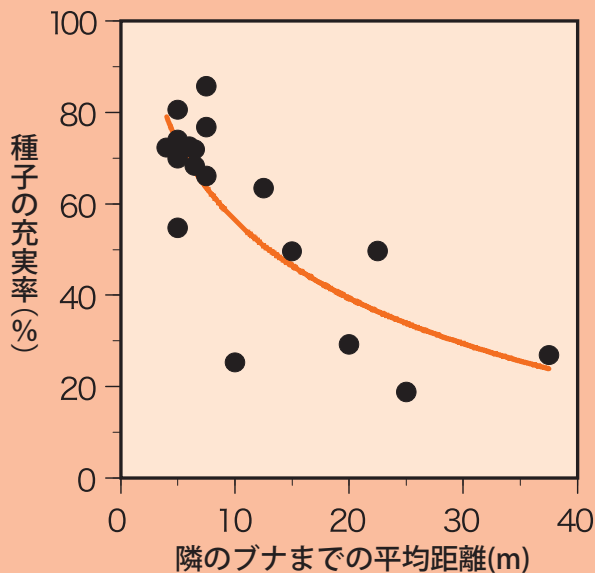
(道南支場・環境グループ)



写真-1 ブナの種子



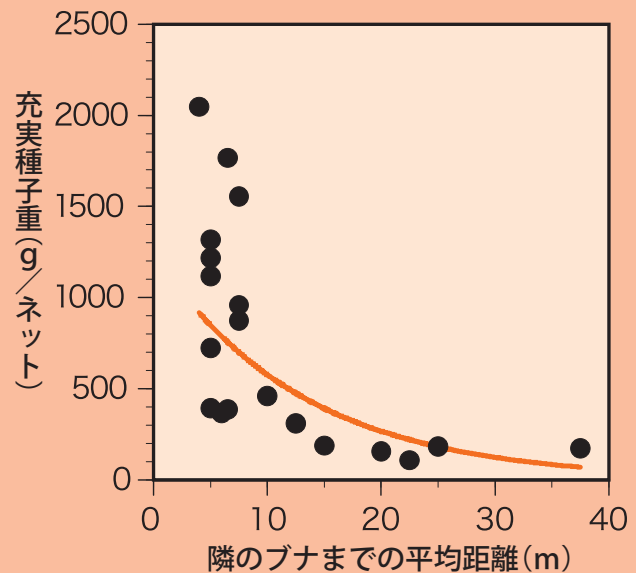
写真-2 ブナ種子の採種風景
落下する種子を大きなネットで受けます



林内環境 ←→ 孤立環境

図-1 母樹の環境とブナ種子の質との関係

隣のブナまでの距離が大きくなると中身の充実した健全な種子の割合低下します。



林内環境 ←→ 孤立環境

図-2 母樹の環境とブナ種子の収量との関係

隣のブナまでの距離が大きくなると中身の充実した健全な種子の収量が低下します。収量はネット(12×12m)一枚あたりの値です。また、充実した健全種子1000gあたり約6000粒です。